



“まっすぐ”が通る生駒に！  
 しおみ  
**塩見まきこ**  
 市議会ニュースレター



臨時号  
 2015年2月発行

発行責任者：塩見牧子 〒630-0213 生駒市東生駒1-215 402 TEL:0743-75-3403 FAX:0743-74-8518 mail:shiomimakiko@yahoo.co.jp  
 ホームページ：shiomimakiko.com/

## 山下市政9年間を振り返る。

2月6日、山下市長は知事選に出馬するため議長に辞職願を提出しました。

市立病院の医療スタッフの確保、地元自治会が開設に反対している生駒北スポーツセンター（旧サンヨースポーツセンター）、市街化区域への編入も協議が整っておらず先行きが見えない北大和グラウンド低炭素まちづくり事業など、数々の課題を残したままの辞職となりました。

2001年に生駒市立保育園で発生したO157集団感染事件における裁判や2003年の学研高山第二工区のニュータウン開発の是非を問う住民投票条例の制定の直接請求で、前中本市政と闘う同志として山下氏と活動し、2007年以降は市議として山下市政と向き合ってきた塩見が、9年間の市政を振り返ります。

### ▶高く評価する山下市政1期目



2006年1月、「市民派の星」として颯爽と登場した山下市長の市政改革は目覚ましいものがありました。その強引な手法に一部から批判はあったものの、補助金の見直し、入札制度改革などの行政改革は、しがらみがなかった山下市長だからこそ断行できたことです。またタウンミーティングを開催したり審議会等に公募市民委員を入れたりするなど、市民参加のしくみが増えたことも評価したいと思います。

特に、保育園の増設、学童保育の整備、幼稚園の預かり保育、子どもサポートセンターの充実など、子育て施策は前市政から飛躍的に拡充し、格段に子育てしやすいまちになりました。

### ▶無計画行政、暴走のはじまり～山下市政2期目～



しかし、2期目の後半になると、「環境」と「教育」のみ名のもと、高山スーパースクールゾーン構想、エコ活動の拠点にするため駅前再開発地の権利床を買う生駒駅前賑わい創出拠点事業のような計画にない思いつきのハコありきの事業が増えてきました。総合計画や施設更新計画、中長期財政計画のなかに位置づけることもなく、行政マネジメントのうえでいかなものか？という案件が頻繁にあがってくるように。

また、環境モデル都市に認定されんがために、予算の裏付けもなくスマートコミュニティ推進奨励金の交付要綱を策定。開発事業地まで認定し、議会がその予算を認めないと再議にまで付して無理やり予算をとっていくという強引な手法は議会制民主主義を否定する暴挙でした。

### ▶特定の事業者とのコネクションが目についだした山下市政3期目



3期目になると「マニフェストに掲げて当選した」からと、ごみの有料化、北部スポーツセンター構想を広く市民の声を聴くこともなく推し進め、「市民協働」はどこへやら。

北大和グラウンド低炭素まちづくり事業のプロポーザルでは、市長自ら選考委員になったり、サンヨースポーツセンターや北大和グラウンドの不動産鑑定や土地価格調査を随意契約で行っている鑑定士の政治団体で講演をしたり、山麓公園の指定管理者（これも1者指定のプロポーザル）であるモンベルの会長が市長の後援会の推薦人になったり、不公平、不透明な事業者選定が目につくようになり、しがらみだらけの官民連携になっていました。



ツイッター、フェイスブック、塩見まきこ活動日記(ブログ)もご覧ください。

塩見まきこ

検索